

富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ

『page2018』 出展レポート

クライアントとの共創をサポートするソリューションを、豊富なサンプル・事例とともに提案

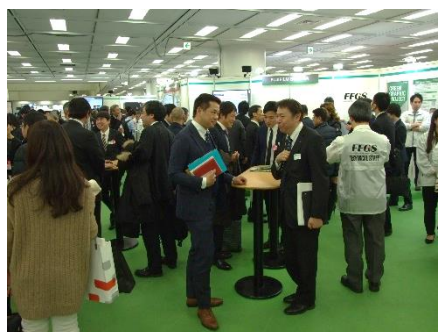
2018年2月28日

富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社

富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社(社長:辻 重紀、以下 FFGS)は、2月7日(水)から9日(金)までの3日間、東京・池袋のサンシャインシティ コンベンションセンターで開催された『page2018』に出展しました。

今回の出展テーマは、「共創の力で、新次元の革新を」。印刷会社の皆さまが、協力会社との連携やクライアントとの関係強化を図りながら新たな価値を生み出していくためのソリューションを、トータルにご提案しました。メインステージのデモでは、最新の POD 機『富士ゼロックス Iridesse™ Production Press』と、Web to Print システム『iAutolay Magic』、面付け・プランニングソリューション『PHOENIX』などを活用した高付加価値提案の例を、架空の印刷会社とクライアントとのやり取りを交えてご紹介し、好評を博しました。

また、スポンサーズセミナーでは、オフセット印刷・デジタル印刷それぞれの特性を活かして新規ジョブを獲得するためのワークフロー、そして、完全無処理 CTP プレートの導入・運用のポイントについて講演を行ない、約 200 名のお客さまに参加いただきました。



【FFGS ブース 出展概要】

■ デジタルプレスソリューション

今回最大の目玉となったのは、初出展のカラーオンデマンド・パブリッシング・システム『富士ゼロックス Iridesse™ Production Press』。CMYK に加えてゴールド、シルバー、クリア、ホワイトの特殊トナーを最大 2 色搭載し、複数の特殊カラーをワンパスで出力できるのが大きな特長です。とくに、ゴールドやシルバーの上に CMYK を重ねたメタリック

カラーの出力サンプルには多くの注目が集まりました。

『Iridesse™ Production Press』実機の前では、「POD トータルワークフローソリューション」として、印刷会社とクライアントのやり取りを想定したデモを実施。Web to Print システム『iAutolay Magic』、バリアブル印刷ソフト『Form Magic4』、面付け・プランニングソリューション『PHOENIX』などを活用しながらクライアントとの関係を深めていく高付加価値提案の例をご紹介します。

また、POD ビジネスには欠かせない後加工機も併せて展示し、クリアファイルや圧着ハガキなどの製作を実演しました。



■ ワークフローソリューション

ハイブリッドワークフローシステム『XMF』『XMF Remote』を中心に、営業と生産現場、協力会社、さらにはクライアントまで含めたワークフローの効率化を実現するシステム群を出展し、それぞれ個別デモブースを設けて一社一社に合わせたご提案を行ないました。中でも面付け・プランニングソリューション『PHOENIX』は、多品種・小ロットのジョブ設計を劇的に効率化するソリューションとして、とくにパッケージやシール・ラベル分野のお客さまから期待が寄せられました。

また、カラーマネージメントの分野では、現状分析・課題抽出から改善策実践までを一貫してサポートする CMS ソリューションや、ファインジェットプレーヤー『PRIMOJET SOFT-XG』の最新バージョンなどをご紹介します。



■FUJIFILM Inkjet Technology

富士フィルム独自のインクジェット技術『FUJIFILM Inkjet Technology』を搭載したデジタルプレスのラインアップを、パネルによる解説やサンプル展示を通じてご紹介しました。新製品として注目を集めたのは、ロールメディア専用の最新ワイドフォーマット機『Acuity LED 1600R』。実機による出力デモを行ない、卓越した画質と生産性を体感していただきました。

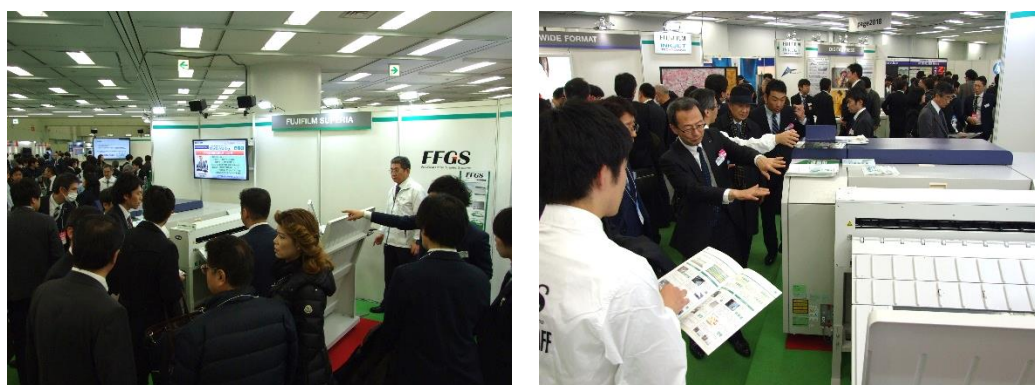
また、優れた色再現性・安定性で好評の B2 サイズ枚葉型インクジェットデジタルプレス『Jet Press 720S』については、紙器パッケージや写真集など、実際のジョブをイメージした出力サンプルを豊富に展示し、オフセット印刷を凌駕する高品質に多くの関心が寄せられました。



■省資源ソリューション『FUJIFILM SUPERIA』

抜群の省資源効果を発揮する完全無処理 CTP プレート『SUPERIA ZD/ZP』、きめ細かいメニュー体系で印刷工程改善をサポートする『Eco& Fast Printing』など、SUPERIA を構成する各ソリューションの具体的なメリットを、多数のお客さま事例とともにご紹介しました。

また、今回、四六半裁サーマル CTP セッターに、省スペース型の無処理 CTP 用ストッカー（参考出品）を接続して展示。従来のコンベア付きラインと比較した省スペース効果をアピールしました。



■パッケージソリューション

UV インクジェットデジタルプレス『Jet Press 540WV』、フレキシソ製版システム

『FLENEX』シリーズなど、軟包装向けソリューションを中心にご紹介しました。このうち『FLENEX』シリーズでは、水現像版の新ラインアップ『FLENEX FW-L2』を初出展。好評の『FW-L』をベースに、生産性・画像再現性・取扱性をさらに高めているのが特長で、今回、版材サンプルを展示するとともに、具体的なメリットをご説明しました。



【FFGS セミナー 講演要旨】

会期中にサンシャインシティワールドインポートマートで実施したFFGSセミナーでは、デジタルワークフロー、無処理 CTP について、市場の背景や事例などを交えながらじっくりと解説しました。2 講演で合計約 200 名が参加し、各回ともご好評をいただきました。

■利益を生む！ IT を駆使してオフセット印刷とデジタル印刷を最大活用するには ～新規ジョブを獲得する仕組みと、利益アップを実現するワークフロー～（2月7日開催）

講師：FFGS ワークフロー営業部 部長・佐々木健至、富士ゼロックス株式会社 グラフィックコミュニケーション事業本部 開発統括 第1商品開発部 WFSOI 開発 T チーム長・荻野賢

小ロット化が進みジョブ単価が下がっていく中で利益を確保するためには、付加価値の高い仕事を増やすことが重要であり、デジタル印刷とオフセット印刷を上手く活用することがカギになります。一方、クライアント企業ではマーケティング・オートメーション(MA)の採用が増え始め、それに伴って印刷会社では今後、細かいジョブが五月雨式に入稿されるケースが多くなると考えられます。こうした中で、多くのジョブを効率よくこなし、利益を確保するためのワークフローについて、FFGS、富士ゼロックスそれぞれのソリューションを交えて解説しました。



FFGS 佐々木 健至



富士ゼロックス 荻野 賢

■ Innovation in Plate Making (2月9日開催)

講師：FFGS 技術一部 部長・西川博史



着実に導入が進んでいる無処理 CTP について、スムーズに導入・運用するためのポイントや導入メリットなどを紹介。すでに無処理化に取り組まれている株式会社光陽社の生産本部 本部長・千葉達也氏、光写真印刷株式会社の制作・生産部部長・東貴志氏に登壇いただき、導入経緯や無処理プレートに対する評価、具体的な導入効果などについて語っていただきました。最後に、

カーボン・オフセット制度を活用した新たなエコプロジェクト『Green Graphic Project』(GGP) について概要を説明した後、GGP への参加社である光陽社、光写真印刷に対し、FFGS 執行役員・河合久仁浩から「カーボン・オフセット証書」の授与を行いました。



光陽社・千葉本部長 (左写真右)、光写真印刷・東部長 (右写真右) にカーボン・オフセット証書を授与